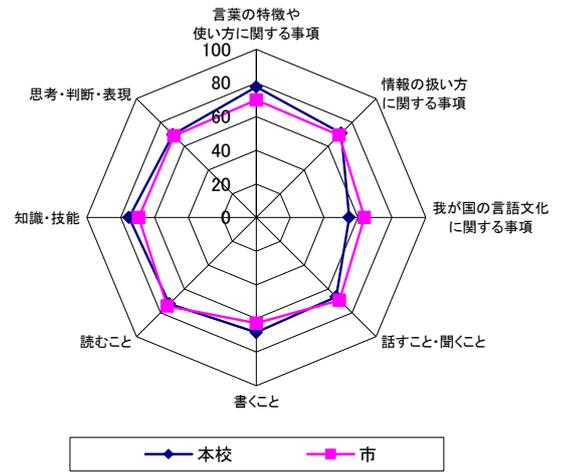


宇都宮市立東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.7	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	71.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	54.8	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.7	69.5	71.5
	書くこと	68.3	62.8	67.1
	読むこと	72.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	75.1	69.4	71.9
	思考・判断・表現	69.7	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は77.7%であり、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○5年生に配当されている漢字を書く問題では、全ての設問で市の平均を上回っている。6年生に配当されている漢字を読む問題では、3問中2問、市の平均を上回っている。 ●敬語を正しく理解して使う設問では、市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を読んだり書いたりする力が身に付いてきている。これは、漢字ドリルを最大限に活用し、漢字の読み書きを定着させてきた効果の表れである。今後も繰り返し練習するだけでなく、熟語を調べたり、漢字を活用したりする学習を行い、漢字を日常生活で使えるようにしていく。 ・敬語を正しく理解して使えるように、プリント学習等で復習してだけでなく、日常生活の中で活用する機会を増やしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は71.0%であり、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問において、市の平均を上回っている。	・ホームページやポスター等、様々な情報の媒体の中から、必要な情報を得て、それらを関連付けて考える力が育っていると考えられる。今後も、教科書教材だけでなく、ホームページや図書資料、ポスター、リーフレット等、様々な情報を見比べたり、必要な情報を取り出して、相互に比較して考えたりするなど、多様な情報を扱えるような指導を行っていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は54.8%であり、市の平均を9ポイント下回っている。 ●語句の由来や和語、漢語、外来語についての設問において市の平均を下回っており、課題が見られる。	・和語、漢語、外来語など、語句の由来に関心がもてるように日々の生活の中で意識させるようにしていく。また、語句の由来について正確に理解できるように、漢字の読みにおける「音読み」と「訓読み」について意識させ、和語と漢語の区別ができるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は66.7%であり、市の平均を2.8ポイント下回っている。 ●話を聞く際、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えて聞いたりする設問で市の平均を下回っており、課題が見られる。	・話を聞く際、話の内容の大体を聞き取ってメモする力だけでなく、細かいキーワード等を落とさずに聞くことができるようにするために、目的や意図をもった話す学習・聞く学習を設定していく。また、メモの意味をもう一度考え、普段の生活の中でも必要に応じてメモをとる学習の時間を設定していく。
書くこと	平均正答率は68.3%であり、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ○文章を書く課題においては、指定された長さで書く、段落構成を考えて書く、自分の意見とその理由を明確にし書くなどの条件に沿って書くことは市の平均を上回っている。	・今後も、文章をただ書かせるのではなく、「文章の長さ」「段落構成」「事実と意見」など条件を入れて書く学習活動を設定していく。学校行事等のふりかえりなどで取り入れることにより、子供たちの意欲を高めながら指導することで、楽しみながら書く力を養っていきたい。
読むこと	平均正答率は72.6%であり、市の平均を1.8ポイント下回っている。 ●説明的な文章の問題において、叙述を基に文章の内容を捉える設問や、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市の平均を下回り、課題が見られる。	・説明的な文章において、正確に読み取る力を身に付けさせるために、正確に音読できるように指導に力を入れる。また、教材文の内容理解だけでなく、文章の書かれ方(構造・構成や事例の取り上げ方など)にも目を向けた指導をすることによって、初めて読む教材でも、筆者の主張が読み取れるように指導していく。